

2) 第40期入学生より 授業科目とその教科内容

■基礎分野 (15単位、416時間)

教育内容	科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
科学的思考の基礎／人間と人間生活の理解	学びのステップ	1	30	1 年次 前期	アカデミックスキルの基本的な 学び方を習得する	スタデイスキル、ノート・テイキングス キル、リーディングスキル、図書室の 活用、ライティングスキル、プレゼン テーションスキル	○				○
	自然科学Ⅰ	1	30	1 年次 前期	自然現象、生命現象の原則・ 法則から解剖生理学へと繋がる 知識を学ぶ	生物)細胞や組織、生命、遺伝子な ど生物の基礎および生命現象の法 則化学)物質の構造や性質、化学反 応、化学変化など物質の合成および 分析の基礎			○		
	自然科学Ⅱ	1	16	2 年次 前期	自然現象を引き起こす物質の 構造や運動の法則から生活・ 看護技術に繋がる知識を学ぶ	物理)力の合成と分解、作用・反作 用、摩擦、テコとトルク、重心と安定、 気圧と圧力			○		
	論理学	1	30	2 年次 後期	論証の成り立ちや理論の構造 について学習し、思考力および 表現力を培う	思考の形式・法則、推論の形式的法 則、論証の理論				○	○
	法学	1	30	1 年次 前期	人の暮らしを守る法律の基礎、 法解釈を学ぶ	憲法、民法、行政法		○		○	
	生活科学	1	30	1 年次 前期	人間の生活を環境との相互作 用から理解し、快適な生活環 境を創造する力を培う	生活と自然環境、食と生活、衣服と 生活、住まいと生活			○		○
	人間と社会	1	30	1 年次 後期	社会現象のメカニズムから社 会の構造や社会変動を学ぶ	現代社会の現状、社会環境、家族の 機能、共生と相互作用、ライフスタイル、少 子高齢社会、社会病理			○		
	心理学	1	30	1 年次 前期	心理学の基本的な知識や考え 方を学び、自分自身を含めた人 間の行動について学ぶ。また 人間の特性を捉え、成長発達 各期にわたる人を理解し、人間 関係構築の基礎力を培う	記憶、思考・言語・知能、学習、感 情と動機づけ、生活とパーソナリ ティー、社会と集団、人間のライフサイ クル各期の特徴と生活、発達心理	○		○		
	教育学	1	30	1 年次 後期	教育の概念・目的を理解し、教 育の理論的基盤を学ぶ	教育原理、教育方法、教育カリキュ ラム、教育評価、生涯学習	○		○		○
	文化人類学	1	30	1 年次 後期	人を社会・文化の側面から理解 する能力を培う	人と文化、生活様式、言語、習慣、 文化人類学的な思考	○	○			
	人間関係論	1	20	1 年次 前期	社会に必要な人間関係(個人の コミュニケーションと組織での コミュニケーション)について 学ぶ	社会人基礎力としてのコミュニケー ション、組織コミュニケーション	○				○
	語学Ⅰ(英語)	1	30	1 年次 前期	多様な国際社会に参加できる コミュニケーション能力を培う	英会話、ケアに役立つ英会話と医学 英語					○
	語学Ⅱ(中国語)	1	30	1 年次 前期	多様な国際社会に参加できる コミュニケーション能力を培う	発音と表現、ケアに役立つ中国語					○
	芸術と創造	1	20	1 年次 前期	人間の心身の相関について認 識を深め、感性、創造力を培 う	創造力を培う、クリエイティブ思考・ 想像力、イノベーション、創造・改革	○				○
	キャリア開発	1	30	2 年次 前期	学習および人格的な成長に向 けて学問的・社会的な体験か らキャリア意識を醸成する	アイデンティティの発達、専門職の姿 勢、キャリア形成	○				○

■専門基礎分野 (23 単位、662 時間)

教育内容	科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
人体の構造と機能 (6 単位)	解剖生理学Ⅰ	1	30	1 年 次 前 期	人体を構成する各器官の基本的な構造(形態)と機能を学ぶ	生命 神経系			○		○
	解剖生理学Ⅱ	1	30			呼吸器系 循環器			○		○
	解剖生理学Ⅲ	1	30			運動器系 感覚器系 血液			○		○
	解剖生理学Ⅳ	1	30	1 年 次 後 期		消化器 内分泌系			○		○
	解剖生理学Ⅴ	1	30			腎・泌尿器系 生殖器系 体液			○		○
	栄養と代謝	1	30	1 年 次 前 期		人体における物質代謝やエネルギーについて学ぶ。そして人間にとっての栄養の意義、ライフサイクルの中での栄養の特徴を理解し、食事療法や栄養指導の基礎を学ぶ	・三大栄養素の消化と吸収と代謝 ・栄養所要量、基礎代謝 ・食品と各種栄養素の栄養学的意識 ・食事療法			○	

*人体の構造と機能 小計：6 単位、180 時間

疾病の成り立ちと回復の促進 (10 単位)	臨床微生物	1	30	1 年 次 後 期	人体へ影響を及ぼす微生物の種類や特徴、感染経路を学ぶとともに生体の防御機構を知りその予防対策を学ぶ	・微生物の分布と人体 ・微生物の種類と特徴 ・病原微生物の感染経路 ・耐性菌 ・予防処置 ・非特異的生体防御 ・特異的生体防御反応			○		
	病理学	1	30	1 年 次 全 期	疾病の成り立ちと病変の特徴の基礎的知識を学ぶ	①生体反応と疾病の機序(疾病を引き起こす内的外的要因・異常状態の発現) ②異常状態の特徴—細胞や組織に生じる変化(炎症、変性、壊死、循環障害、萎縮、過形成、腫瘍) ③異常状態に影響する個体の条件(免疫、代謝異常、老化、先天異常)			○		
	疾病理解の看護学的視点・症候論	1	30	1 年 次 後 期	解剖生理や病態生理学の知識を基に、疾病を看護の視点から捉える能力を培う	①疾病の成り立ちと回復の促進と看護 ②病態・症候論 ③病因と病態との関連			○		○
	臨床検査	1	30	1 年 次 後 期	診断に必要な検査とその結果の読み取りについて学ぶ	①臨床検査(目的意義・種類；生理検査・X線検査・心電図・超音波検査・検体検査・結果の読み取り方) ②放射線検査			○		
	疾病論Ⅰ	1	30	1 年 次 後 期	疾病の概念・診断基準及び鑑別・治療の目的・方法について学ぶ	脳神経障害、運動器障害、自己免疫障害			○		○
	疾病論Ⅱ	1	30	1 年 次 後 期		呼吸器障害、循環器障害、血液・造血器障害			○		○
	疾病論Ⅲ	1	30	2 年 次 前 期		消化器障害、感覚器障害、歯・口腔器障害			○		○
	疾病論Ⅳ	1	30	2 年 次 前 期		内分泌代謝体液障害、腎泌尿器障害、生殖器障害			○		○
	治療論	1	30	2 年 次 前 期		リハビリテーション治療、放射線治療、透析療法、ME 機器			○		

教育内容	科目	単位	時間数	配当時期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
疾病の成り立ちと回復の促進(10単位)	薬理学	1	30	1 年次後期	薬物の特性や作用機序について学ぶ	①総論 ②相互作用(薬品・食事) ③化学療法 ④末梢神経作用物質 ⑤中枢神経作用物質 ⑥呼吸器治療薬 ⑦オータコイド ⑧消化器治療薬 ⑨生殖器治療薬 ⑩高齢者と小児における薬物動態と特徴 ⑪主な疾患と薬			○		

* 疾病の成り立ちと回復の促進 小計：10単位、300時間

健康支援と社会保障制度(7単位)	臨床心理学	1	16	3 年次前期	人間の発達と適応における心の問題に焦点を当て、臨床心理学を基にした人間理解と援助の基本を学ぶ	①人間の発達と適応における心理アセスメント ②心理療法 ③自己理解と他者理解	○		○		
	公衆衛生学	1	30	3 年次全期	地域における組織的な健康管理活動について学ぶ	①公衆衛生の理念 ②疫学と健康指標 ③感染症と予防 ④生活習慣病と予防 ⑤食生活と健康 ⑥生活環境と健康 ⑦職場の健康管理 ⑧医療の動向と公衆衛生の課題			○		○
	保健医療福祉論	1	16	4 年次全期	保健医療福祉の行財政の理念と基本的仕組みを踏まえたのち、生存権保障の重要な手段である社会保障・社会福祉制度について学ぶ	①保健医療福祉の変遷②保健医療福祉に関する制度③保健医療福祉の今日的課題			○		○
	社会福祉	1	30	2 年次後期	経済的困窮者や社会的弱者の権利を擁護する在り方、考え方を理解し、現行の社会福祉制度を学ぶ	児童福祉制度、高齢者福祉制度、障害者福祉制度			○		○
	関係法規	1	30	3 年次前期	保健医療関連法規を学び、医療従事者としての業務と責任を認識する	①法規の概念、しくみ ②医事法規 ③薬事法規 ④保健衛生法規 ⑤予防衛生法規 ⑥環境衛生法規 ⑦公害関係法規 ⑧福祉関係法規 ⑨労働衛生法規			○		○
	医療と倫理	1	30	4 年次全期	医療技術が高度化している現代において、生命の価値、医療のあり方と社会的期待、医療における経済など、現代医療が持つ問題について学ぶ	医療と倫理(・自己決定権、体外受精、遺伝子治療、クローン、脳死と臓器移植、安楽死・尊厳死など) 医療と経済(医療制度の現状(後期高齢者医療制度、介護保険、医療の展望))		○	○		
	保健統計	1	30	3 年次前期	統計とは何か、その解析および解釈の基礎的知識について学ぶ	統計の意味およびデータの種類、統計の種類、基礎的な指標、推測統計学の考え方。母集団と標本、代表と散布、正規分布、推定と検定、バイアスの種類、関連と相関					○

* 健康支援と社会保障制度 小計：7単位、182時間

専門分野

■基礎看護学 (11単位、306時間)

科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
看護学原論Ⅰ	1	30	1 年次 全期	人間・健康・環境の概念および看護の定義・機能を学び、看護が社会において果たすべき役割を考え、看護とは何かを主体的に追究する	①看護とは何か ②人間・環境・健康を捉える看護学的視点 ③看護の意義・機能と看護の果たす役割 ④看護の理論学習		○	○		○
看護学原論Ⅱ	1	16	3 年次 全期	看護の歴史の変遷を学び、高度に進展する保健医療福祉の中で、人間の尊厳や人権を尊重する看護を迫及する	①看護の歴史と展望 ②義務論と結果論、倫理原則、倫理概念 ③看護者の倫理綱領と人権擁護 ④倫理的ジレンマと倫理的意思決定		○	○		○
共通基本技術Ⅰ	1	30	1 年次 全期	看護技術を支える要素を理解し、看護技術を提供する時の基礎的知識・技術・態度を学ぶ	①技術論、看護技術の構造 ②原理・原則、安全・安楽・自立/自律 ③安全、感染予防の基礎		○	○		○
共通基本技術Ⅱ	1	30	1 年次 全期	看護におけるコミュニケーション観察の基礎的知識・技術を学ぶ	①看護におけるコミュニケーション ②看護における観察バイタルサイン測定、記録・報告	○		○		
共通基本技術Ⅲ	1	30	2 年次 前期	体表面から対象者の身体を観察し、身体内部をアセスメントする技術を学ぶ	①看護におけるフィジカルアセスメントの意義 ②フィジカルアセスメント				○	
共通基本技術Ⅳ	1	30	2 年次 前期	看護を科学的根拠に基づいて提供するための思考過程について学び、看護の視点に基づいて対象の健康上の問題を解決する方法を学ぶ	①看護の視点に基づく情報収集、アセスメント、問題の明確化(看護診断)期待する結果の明確化、計画、実施、評価				○	
生活援助技術Ⅰ	1	30	1 実期	人間の生活における生活行動の意義を理解し、対象者への生活援助の技術を学ぶ	①環境調整 ②活動と休息				○	
生活援助技術Ⅱ	1	30	1 年次 後期		①食事 ②排泄				○	
生活援助技術Ⅲ	1	30	2 年次 前期		①清潔・衣生活				○	
診断治療に伴う技術Ⅰ	1	20	2 年次 前期	健康障害を持つ対象者の診断・治療の意義を理解し、診断・治療に伴う基礎的な技術を学ぶ	①感染予防 ②吸引、酸素療法			○	○	
診断治療に伴う技術Ⅱ	1	30	2 年次 前期		①診察・検査 ②与薬			○	○	

■地域・在宅看護論 (4単位 120時間)

科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
地域・在宅看護概論Ⅰ	1	30	1 年次 全期	地域で暮らす人々と、家族について理解し、人々の暮らしと暮らしを支えるシステムや環境について学ぶ	地域で暮らす人々、看護の対象、暮らし、地域社会、社会資源、看護が提供させるような場	○			○	○
地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30	2 年次 全期	地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を学ぶ	地域・在宅看護に関する法と制度、地域・在宅看護における看護の基盤、地域包括ケアシステム、ケアマネジメント			○	○	
地域・在宅看護活動論Ⅰ	1	30	3 年次 前期	療養者と家族の生活を支える、地域・在宅看護のアセスメントと技術について学ぶ	地域・在宅で療養する療養者と家族のアセスメント、地域・在宅における生活支援技術・診断治療に伴う技術、フィジカルアセスメント			○		○
地域・在宅看護活動論Ⅱ	1	30	3 年次 全期	地域で健康問題を抱えながら療養生活をおくる対象の状態の変化に応じた看護について学ぶ	地域・在宅で療養する事例の看護、多職種連携		○	○	○	○

■領域横断 (8単位、240時間)

科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
健康教育論	1	30	2 年次 全期	健康レベルに応じた健康の保持・増進、対象の生活の多様性をふまえた実践能力育成に向けた基礎的知識について学ぶ	①健康の保持・増進 ②健康教育の目的・対象 ③健康行動理論 ④健康教育の場 ⑤集団・個別保健指導			○	○	
対象別保健論	1	30	3 年次 全期	各発達段階における保健課題について学び、保健課題達成を目指す社会資源について学ぶ	①対象別保健総論 ②高齢者保健 ③母子保健 ④成人保健 ⑤精神保健			○	○	
健康回復支援総論	1	30	1 年次 後期	健康問題を持つ対象を理解し、状態に応じて看護を提供する能力を培う	①患者心理の特徴 ②健康障害と看護 ③疾病の経過と看護 ④治療診断に伴う看護 ⑤主要症状と看護 ⑥健康回復支援・継続看護			○		○
手術療法と看護	1	30	2 年次 前期	手術療法を受ける対象とその家族を理解し、周手術期の経時的变化を捉えながら、クリティカルな視点を持ち看護が実践できる能力を培う	①周手術期の概要と看護の役割 ②麻酔法・生体反応の機序 ③術前・術中・術後の経過と看護 ④全身麻酔・開腹術後の経時的变化とそれに応じた合併症予防のための看護 ⑤高リスク患者の周手術期の看護 ⑥周手術期の経過における多職種連携			○	○	
問題解決 思考活用法	1	30	2 年次 後期	基礎看護学共通基本技術Ⅳの考え方を土台に対象特性・場および、健康状態に応じた看護展開を学び、根拠に基づく計画的な看護実践ができる能力を培う	事例展開			○		○
臨床判断の 基礎	1	30	3 年次 全期	健康レベルに応じた対象の状態(病期・症状)をとらえ、その場、その時に適切な判断ができ、状況に応じた看護が実践できる臨床判断能力を培う	クリティカルな状態の対象の超急性期～在宅			○		○
多職種連携	1	30	3 年次 全期	「対象を社会の中で生活する人」ととらえ健康問題を持つ人が社会で生活するためには、多職種との連携は重要であり、地域、病院、施設、在宅で生活する対象と医療をつなげる能力を培う	医療の場と暮らしをつなぐ、いのちをつなぐ、治療の場での回復をつなぐ、治療と暮らしをつなぐ、医療と介護をつなぐ、人と人のこころをつなぐ、人と暮らしをつなぐ	○			○	
エンドオブ ライフケア	1	30	4 年次 全期	最期までその人らしい生と死を全うできるように支援する看護について理解を深める。また対象とその家族を取りまく人々を支援する多職種連携、死をより良い状態で迎えられるように支援する看護が実践できる能力を培う	①自らの死生観 ②エンドオブライフケアの概念と変遷 ③エンドオブライフケアの対象である患者の心理 ④全人的苦痛と看護介入 ⑤発達段階に応じたエンドオブライフケア ⑥場に応じたエンドオブライフケア		○	○		

■成人看護学 (4単位、120時間)

科目	単位	時間数	配当時期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
成人看護学概論	1	30	2 年次 全期	ライフステージにおける成人期の発達課題と特徴を学ぶ社会の動向生活の場、生活が成人の健康に影響する要因を考察し成人の健康を学ぶ	①成人期にある対象の理解 ②成人の暮らしと健康問題 ③健康問題の経過の特徴と経過に応じた看護④看護理論 ⑤フィールドワーク	○		○	○	
成人看護学方法論Ⅰ	1	30	2 年次 後期	クリティカルケア看護の基本を学び、クリティカルケアを必要とする対象を理解し、看護実践に活かすための知識・技術を学ぶ	①クリティカルな状態にある対象の理解 ②クリティカルな状態にある患者理解と看護 ③BLS、ACLS ④クリティカルに必要な医療機器の取り扱い・ヘルスアセスメント		○	○	○	
成人看護学方法論Ⅱ	1	30	2 年次 後期	健康問題が回復に向かう対象を理解し早期の社会生活の適応を目指し、生活の再構築に向けた看護を学ぶ	①回復期にある対象の理解 ②生活の再構築 ③セルフケア能力の獲得に向けた生活支援技術 ④成人を支える社会資源				○	○
成人看護学方法論Ⅲ	1	30	3 年次 前期	生涯にわたり慢性疾患と共に生きる成人期を対象とその家族へのセルフマネジメントの支援の方法を学ぶ	①慢性期にある対象の理解 ②セルフマネジメント ③慢性期看護に必要な看護技術				○	○

■老年看護学 (3単位、90時間)

科目	単位	時間数	配当時期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
老年看護学概論	1	30	2 年次 前期	老年期の対象の特徴を理解し、老いをとりまく社会を学ぶ	①高齢者の身体的・社会的・精神的特徴を理解する。 ②保健医療福祉制度・介護保険の概要を理解する ③認知症高齢者の看護を理解する ④高齢者のおかれている社会的状況を理解する ⑤老年看護の役割と責任を理解する	○		○	○	
老年看護学方法論Ⅰ	1	30	2 年次 後期	加齢による変化や、健康問題に伴い必要となる日常生活自立の支援技術を学ぶ	①高齢者が介助を受けながら自立して、生きがいのある生活をしていくための支援方法が理解できる ②日常生活支援技術の意義について理解できる ③日常生活支援ができる ④高齢者のリハビリテーションについて企画することができる ⑤高齢者のおかれている社会的状況を理解する ⑥老年看護の役割と責任を理解する		○	○	○	
老年看護学方法論Ⅱ	1	30	3 年次 前期	老年期に特徴的な症状と健康問題および看護を学ぶ	①高齢者に特徴的な症候・症状とその看護が理解できる ②高齢者の健康障害時の看護が理解できる ③治療を受ける患者の看護が理解できる		○	○	○	

■小児看護学 (4単位、90時間)

科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
小児看護学概論	1	20	2 年 次 前 期	小児看護の対象・目的・看護の役割について学ぶ。また、小児の成長発達過程を理解し、成長・発達を促すための援助方法について学ぶ。さらに小児を取り巻く環境について学ぶ	①小児看護の対象と看護の役割 ②子どもの倫理と最善の利益 ③子どもを取り巻く環境と施策 ④子どもの成長と発達 ⑤各期の子どもの成長・発達と看護 ⑥子どもの生活の場と環境 ⑦遊びの発達と子どもとの関わり方 ⑧子どもの成長と発達と健康増進のための援助方法	○	○	○		
小児看護学方法論Ⅰ	1	30	2 年 次 全 期	小児の代表的な疾患における成因・症状・治療について学ぶ。また、健康問題が子どもと家族に及ぼす影響と看護について学ぶ。そして、さまざまな健康問題にある子どもと家族への看護について学ぶ	①小児の各期の成長段階における代表的な疾患における成因、症状、治療 ②病気や入院が子どもと家族に与える影響やその看護 ③外来における子どもと家族の看護 ④子どもに多い事故・外傷に対する看護 ⑤救急処置が必要な子どもと家族への看護 ⑥先天的な健康問題を持つ子どもと家族への看護 ⑦NICUにおける看護 ⑧さまざまな状況にある子どもと家族への看護 ⑨子どもの与薬の特徴と看護			○		
小児看護学方法論Ⅱ	1	20	2 年 次 後 期	さまざまな健康状態にある子どもと家族への看護について学ぶ	①急性期にある子どもと家屋への看護 ②川崎病の子どもと家族への看護 ③慢性期にある子どもと家族への看護 ④ネフローゼ症候群の成因・症状・治療・検査 ⑤ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護 ⑥白血病の成因・症状・治療・検査 ⑦白血病の子どもと家族への看護			○		
小児看護学方法論Ⅲ	1	20	3 年 次 前 期	さまざまな健康状態にある子どもと家族へ看護過程の展開方法について学び、根拠に基づく計画的な看護実践ができる能力を培う。また、小児看護技術の特徴と方法について学ぶ	①小児看護技術の基本 ②小児の生活援助技術 ③小児の診療の補助技術 ④検査や処置を受ける子どもと家族の看護 ⑤小児看護過程の特徴 ⑥NANDA-Iを用いた小児看護過程の展開方法		○	○		○

■母性看護学 (4単位、100時間)

科目	単位	時間数	配当時期	ねらい	学習内容	DP1	PD2	DP3	DP4	DP5
母性看護学概論	1	30	2年次前期	母性看護の目標、主な概念、看護の対象の特性、母子保健の基本を学ぶ。妊娠期の対象と看護の基本を学ぶ	①生命誕生と親になること ②母性看護の役割と主要な概念 ③母性看護の対象 ④母子保健の歴史と統計 ⑤妊娠期の区分と妊婦健康診査 ⑥妊婦と胎児の生理 ⑦ハイリスク妊娠 ⑧妊娠期の家族と看護	○	○	○	○	
母性看護学方法論Ⅰ	1	30	2年次後期	分娩期・産褥期・新生児期の看護の対象の特性と看護の基本を学ぶ	①分娩の三要素と正常な経過 ②分娩期のCTG ③分娩期の看護 ④児と産婦のアセスメント視点 ⑤分娩入院のパス ⑥褥婦の経過と看護 ⑦児の経過と看護				○	
母性看護学方法論Ⅱ	1	20	3年次前期	分娩入院の母子に対する看護過程の基本的な展開を学ぶ	①事例の理解 ②受け持つまでの経過の理解 ③看護の方向性 ④看護の実践課程 ⑤技術習得(沐浴)	○		○		
母性看護学方法論Ⅲ	1	20	4年次全期	ライフサイクル各期の女性の心身の健康課題の特性を学ぶ対象へのリプロダクティブヘルスの支援の在り方を学ぶ	①ウイメンズヘルスの特性 ②成熟期・更老期の対象への支援 ③生殖医療(出生前診断と不妊治療) ④生殖医療を受ける対象への支援 ⑤実践リプロダクティブヘルスケア～性と生の健康教育(ピアワーク)～ ⑥未来へ向けて	○	○		○	○

■精神看護学 (4単位 110時間)

科目	単位	時間数	配当時期	ねらい	学習内容	DP1	PD2	DP3	DP4	DP5
精神看護学概論	1	30	1年次後期	精神保健・看護の基本と精神を取り巻く現状について理解を深める	①精神保健・医療・福祉の歴史 ②現在の精神医療・看護の状況 ③リエゾン精神看護 ④心の構造と機能・心の発達 ⑤精神の健康と精神を病むとは ⑥暮しの場(家族・学校・職場・地域)と精神の健康 ⑦精神の健康を護るための法律	○	○			
精神看護学方法論Ⅰ	1	30	2年次前期	主な精神疾患・障害の特徴と看護について基本的な理解ができる	①精神状態別看護 ②主な精神疾患の経過別看護 ③主な精神疾患の治療・処置・検査別看護 ④主な精神疾患の外来・入院・退院時の看護 ⑤地域への継続看護 ⑥事業所見学				○	○
精神看護学方法論Ⅱ	1	30	2年次後期	理論を通して精神看護の対象を理解し、事例の看護が根拠に基づき実践できる	①アレン・E・アイビィの基本的な人間関係技術 ②フロイトの力動論 ③ペプロウの対人関係論 ④認知行動理論(SST体験) ⑤対象関係論	○		○		○
精神看護学方法論Ⅲ	1	20	3年次前期	精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱを踏まえて、主な精神疾患の急性期・慢性期・社会復帰期の看護過程を展開する能力を培う	①うつ病の急性期の看護過程展開 ②統合失調症の慢性期の看護過程展開 ③地域で暮らす精神障害者の看護			○	○	○

■看護の統合と実践 (20単位、416時間)

科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
看護の統合と実践Ⅰ	2	40	3 年次 全期	既習の知識・技術を統合し、対象者の健康状態に応じた看護を実践する能力を育成することが主たるねらいであると同時に、看護師をめざす者として主体的な学習活動を期待するものである	①科学的思考を用いて健康状態に応じた看護実践 ②看護 OSCE ③自己の実践を省察し、自己の課題を明確にする	○	○	○		○
看護の統合と実践Ⅱ	1	30	4 年次 前期	医療安全の基礎的な知識を活かし、事例を教材にしてリスクマネジメント能力や倫理的判断能力を培う	①セーフティマネジメント ②倫理的問題への対処 ③看護 OSCE	○	○	○	○	○
看護管理	1	20	4 年次 全期	看護におけるマネジメントの基本や看護管理についての基礎的な理解を深める	①看護の動向と政策 ②看護管理システム ③リーダー・メンバーシップ ④医療安全		○		○	
家族看護学	1	16	3 年次 全期	家族の機能や家族の多様性を捉え、患者・家族に必要な看護について学ぶ	①家族の機能 ②ライフスタイルの変化 ③社会の中の集団		○		○	○
災害看護と国際協力	1	30	4 年次 全期	広範囲に健康被害が生じる災害時の看護について学習するとともに、災害各期における役割機能と看護活動について理解を深める。グローバル化を視野に入れ、国際協力について考える	①災害医療や災害看護 ②災害発生に伴う健康問題と看護・保健活動 ③国際社会における保健医療福祉の実情と国際協力				○	○
感染症と看護	1	20	4 年次 全期	感染症対策への意識を高め、対象特性や看護活動の場の変化における感染症の理解を深めてその予防対策と感染発生時の適切な対応について学ぶ	①院内感染症の予防と対策 ②地域における感染症予防対策と対応 ③事例や場面で考える感染症予防対策 (演習)			○	○	○
看護リフレクションⅠ	1	20	2 年後期 4 年次 前期	臨地実習の体験をリフレクションし、状況の認知・状況の問題意識・状況から得た学びを価値に転換できる能力を培う	①看護におけるリフレクション ②臨地実習における体験のリフレクション ③ (医療安全を含む) 状況から得た学びの価値づけ	○				○
看護リフレクションⅡ	1	30	4 年次 全期	看護を探究する能力を培う	看護理論に親しみ、その理解につなげる	○				○
看護の探求	1	20	3 年次 前期	看護を探究する能力を培う	看護理論に親しみ、その理解につなげる		○			○
看護研究Ⅰ	2	40	3 年次 全期	看護研究についての基本的な知識を学び、研究的態度を身につける	研究論文を批判的に読む学習を経て、自ら研究テーマを探し看護研究を計画する学習に取り組む			○		○
看護研究Ⅱ	2	60	4 年次 全期	看護の質向上のために研究的視野をもった行動ができるように看護研究に取り組み、発表を行う	看護の質向上のために研究的視野をもった行動ができるように看護研究に取り組み、発表を行う			○		○
看護実践強化セミナーⅠ	2	30	3 年次 全期	対象の健康状態に応じた看護が実践できる人材を育成するために、看護基礎教育でその習熟度を高めたい技術として救命救急の技術力を高めていく	応急手当普及員講習会への参加 BLSを他者に指導する技術				○	○
看護実践強化セミナーⅡ	2	30	4 年次 全期	看護の専門性の追求をめざし、特定分野についての新しい知見・優れた技術をもつ専門看護師・認定看護師・診療看護師を招き、最新情報や技術について学び実践的関心を高めて生涯学習をし続ける意義と専門職としての今後の展望をもつ	救命救急に必要な知識と技術 (ALS)				○	○
特定分野看護セミナー	2	30	4 年次 全期	看護の専門性の追求をめざし、特定分野についての新しい知見・優れた技術をもつ専門看護師・認定看護師・診療看護師を招き、最新情報や技術について学び実践的関心を高めて生涯学習をし続ける意義と専門職としての今後の展望をもつ	スペシャリストの講義・演習 専門性の追求 (課題レポートに取り組む)				○	○

■臨地実習 (24 単位、975 時間)

科目	単 位	時 間 数	配 当 時 期	ねらい	学習内容	D P 1	P D 2	D P 3	D P 4	D P 5
基礎看護学実習	1	40	1 年次 全期	看護の対象者を理解し、看護実践の基礎となる知識・技術・態度を学び、看護者としての姿勢を培う	①看護活動の実際を知る ②患者理解 ③共通基本技術・日常生活技術の実践 ④看護の役割・機能、看護者の倫理綱領	○		○		○
地域・在宅看護論実習Ⅰ	2	80	3 年次 前期	地域で生活する人々・家族について理解し、健康と暮らしを支える看護が実践できる基礎的能力を培う	①対象が利用している施設の理解 ②対象理解 ③施設における看護の実際 ④施設における看護の役割	○	○	○	○	○
地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	80	3 年次 後期 4 年次 前期	地域の看護活動を知り、療養する人々と家族の健康と暮らしを支える看護を実践する基礎的能力を培う	①対象理解 ②対象の価値観や療養生活における看護の実際 ③在宅で暮らす人々を支える多職種連携 ④訪問看護師の役割	○	○	○	○	○
看護過程実習	3	120	2 年次 前期	受け持ち患者の看護を通して、看護診断能力を身につけるとともに、患者に応じた看護を実践する能力を培う	①看護の視点に基づく情報収集 ②アセスメント、問題の明確化（看護診断）、期待する結果の明確化、計画立案 ③看護計画の実施、評価 ④看護実践の振り返り ⑤看護者の倫理綱領	○	○	○	○	○
健康状態別実習Ⅰ	3	120	3 年次 後期 4 年次 前期	健康問題を抱え入院する患者を総合的に理解し、問題解決思考を活用し、健康状態に応じた看護を実践する能力を培う	①患者の成長・発達・健康状態の把握 ②健康状態に応じたアセスメント、問題の明確化（看護診断）、期待する結果の明確化、計画立案 ③看護計画の実施、評価 ④看護実践の振り返り ⑤多職種連携 ⑥自己の課題の明確化	○	○	○	○	○
健康状態別実習Ⅱ	2	80	3 年次 後期 4 年次 前期	周術期にある患者を総合的に理解し、周術期の特徴をふまえた看護を実践できる能力を培う	①手術を受ける患者の身体的・精神的・社会的特徴 ②術式・麻酔法 ③術前・術中・術後の看護 ④ムーアの生体反応 ⑤術後合併症	○	○	○	○	○
手術室実習	1	40	3 年次 後期 4 年次 前期	手術を受ける患者を総合的に理解し、手術における看護師の役割および多職種連携について理解し、適切な看護を実践できる能力を培う	①手術室の環境 ②手術が患者・家族に与える影響 ③手術室における看護の実際 ④手術室における多職種連携	○	○	○	○	○
ICU 実習	1	40	3 年次 後期 4 年次 前期	クリティカルな状況にある患者を総合的に理解し、臨床判断を活用して適切な看護を実践できる能力を培う	①ICUの環境 ②ICUの治療環境が患者・家族に与える影響 ③ICUにおける看護の実際 ④ICUにおける多職種連携	○	○	○	○	○
小児看護学実習Ⅰ	1	40	2 年次 前期	小児看護の対象を理解し、子どもの健康の保持増進や健康問題の解決に向けた看護が実践できる能力を培う	①乳幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達 ②乳幼児の保育に必要な援助 ③保育における安全対策の実際 ④保育施設における育児支援の実際	○	○	○		
小児看護学実習Ⅱ	1	40	3 年次 後期 4 年次 前期	小児看護の対象を理解し、子どもの健康の保持増進や健康問題の解決に向けた看護が実践できる能力を培う	①子どもの成長と発達段階および家族の状況の理解 ②子どもの健康問題の判断 ③健康問題や治療が子どもおよび家族に与える影響 ④健康問題を持つ子どもと家族への援助方法	○	○	○	○	○

母性看護学 実習	2	80	3 年次後期 4 年次前期 妊産婦、褥婦および新生児と その家族に対して、次世代の 健全な育成に向けた切れ目 ない支援をするための基礎 的能力を培う	①母性看護の対象の特性 ②周産期の看護過程 ③周産期の基本的看護技術 ④地域の周産期から育児期の支援体制 ⑤生命の尊さと母性看護の役割	○	○	○		
精神看護学 実習	2	80	3 年次後期 4 年次前期 受け持ち患者が望む「生活」 や「生き方」の実現を目指し て、患者理解や自己理解を深 めるとともに、患者自身が自 らのニーズに気づき、それを 充足していく過程をサポート する看護について考え、基 礎的な精神看護を実践する 能力を培う	①セルフケアの維持・拡大、地域生活移 行に向けた看護 ②精神症状緩和に向けた治療的コミュ ニケーション ③自己決定の尊重、人権擁護の重要性 ④精神科薬物療法・ハビリテーション療 法の実際 ⑤チーム医療の連携・協働の実際と看護 職者の役割	○	○	○	○	○
統合実習	3	135	4 年次全期 看護専門職者として自己の 課題を明確にし、自己研鑽す る能力を培うとともに、看護 チームの一員として実務に 即した看護実践に主体的に 取り組み、看護実践能力の向 上をめざす	①健康状態に応じた患者の看護 ②臨床判断の基礎 ③多職種連携 ④医療安全 ⑤看護専門職者としての自己の課題と 展望	○	○	○	○	○